

旧塩田小の経済門

文書館は、平成22年に閉校した旧塩田小学校を改修し、利用しています。玄関近くに「経済門」と彫られた石碑があり、多くの来館者が目をとめます。いったいどんな由緒を持つものなのでしょうか。

◇学校時代から存在

石碑は高さが194cm、幅38.5cm、奥行が25.5cmの石柱状で、塩田地区で産出する白谷石で作られています。表面に「経済門」と刻まれていて、ほかには刻銘はなく、年代は不明です。

地元の方のお話しによれば、かつての正門にはこの経済門と「道德門」と刻まれた石柱が一对で置かれていたそうですが、いつ建てられたものかはわかりませんでした。校舎の建て替えや配置替えの際に、いつの頃か道德門は失われてしまったようです。

昭和24年から38年にかけて塩田小学校の教員だった鳥喰唯然さんは、当時の古老から、経済門と道德門は二宮尊徳の教えを取り入れたものだったことを教えられました。



▲経済門

◇報徳思想の広がり

二宮尊徳は、かつてはどの学校にもみられた、薪を背負って勉学に励む少年の像のモデル、二宮金次郎のことです。

二宮尊徳（1787—1856）は江戸時代後半に小田原近くの村で生まれました。家は裕福でしたが災害による減収などが原因で徐々に没落していき、両親を失ってからは伯父の家に居候して農作業に励みました。尊徳は、厳しい労働の中でも学問を怠らず、儉約と勤労でついに生家の復興にこぎつけました。これをみた小田原藩や幕府では、荒廃した領地の復興を尊徳に託しました。小田原藩家老服部家の財政再建や下野国桜町領（栃木県真岡市）、次いで烏山や日光領などの復興に弟子とともに携わり、そのさなかに今市（栃木県日光市）で生涯を終えました。

尊徳の教えは弟子の富田高慶により安政3年（1856）に『報徳記』としてまとめられ広まりま

した。そこには「至誠」、「勤労」、「分度」（自分の置かれた状況や立場、収入に応じた生活をする）、「推譲」（余剰を何かのために貯めておくことや他人や社会のために譲ったりすること）といった教えが、具体例を挙げながら庶民にもわかりやすく説かれました。与えられた環境のなかで努力して成果を挙げようという尊徳の思想は国家にも大いに受け入れられ、明治政府は報徳思想の普及やそれを推進する報徳社の運動を後押ししました。そのような運動の中で、困窮する農民の救済のために「経済」と「道德」の調和が重要であると説かれました。「経済門」と「道德門」はこの思想のシンボルとして作られました。

報徳運動は教育現場にも取り入れられました。尊徳は、明治37年の国定教科書に登場して以来、勤儉や精励を体現する人物として、敗戦まで多くの教科書に掲載されました。明治37年から大正6年までの塩田小学校の記録である『塩田尋常高等小学校学校沿革史』（大宮北小学校蔵）には、明治43年2月12日付の行事として「報徳ノ講話ヲ開ク」とあり、同日に「報徳文庫ヲ設ク」とあります。また別のページには「経済重要。山、田、推譲美風。益々経済ニ支配サレ生活難トナル」など講演会の聴講メモと思われる記述もあります。この時期に報徳の精神を醸成するための講演会や関連図書の整備が行われたことがわかります。これらの一環として、経済門が設置されたのでしょうか。

現在も報徳運動の中心として活動している大日本報徳社（掛川市）には明治期建立の経済門と道德門があります。塩田小学校にもこのような一对が存在していたのでしょうか。



大日本報徳社の経済門と道德門（写真提供大日本報徳社）
大日本報徳社、鳥喰唯然さんにご協力をいただきました。

■問い合わせ■ 文書館 ☎52-0571